

国語と歴史は日本人にとって大切な学問

公立学校には抜本的な改革が必要

Q. 三宅隆介 子どもたちの学力低下、不登校児童問題など現在の公立学校には、抜本的な改革が必要だと思いませんか？

A. 教育長 子どもや保護者から信頼される学校づくりが図れるよう支援して参ります。

三宅隆介の視点

教育は義務でなく権利です。教育を自由化して教育を受ける側に学校を選択する権利を保障すべきです。とりわけ、国語と歴史は日本人にとって最も大切な学問であるにもかかわらず、その学力はともに深刻な状況にあり改革は急務です。また、倫理や道德教育は原則的に家庭が行うべきことを学校はしっかりと親に宣告すべきです。

ただ漠然と緑がよいというだけの緑化はダメ

Q. 三宅隆介 現在の環境行政には、なぜ緑化が必要なのかという基本的議論が欠如しています。CO2の削減や単なる文明批判的な緑化推進には危惧を抱かざるをえませんか？

A. 環境局長 建物の屋上を含めて可能な限り緑化を推進し、緑と触れ合える空間を確保することが重要です。

三宅隆介の視点

人間は本来、草木やお花あるいは気候によって季節を感じとる生命体だと思います。しかし、それは心のゆとりを保っていないと難しい。そういった人間本来の感受性を高める為にも緑地保全が必要なのだと思います。

窓口業務の利便性向上を

Q. 三宅隆介 行政は最大のサービス産業です。窓口に来る市民は「お客様」です。ファミリーレストランではありませんが、窓口の職員が「市役所へようこそ」と市民に声をかけることも考えたらどうでしょうか？

A. あべ市長 「ようこそ」「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」などそれぞれの窓口で表現の仕方は工夫しながら、そういう気持ちで市民に接するような市役所でありたいと思っています。

三宅隆介の視点

市役所とは、市民のために役に立つ所です。スーパーや商業施設の中に出張行政サービスコーナーを設置したり、あるいは窓口に来る市民をお客様と思う接客姿勢が大切です。